

Data Collabo

～国勢調査データ～

Data Collaboでは、前回(Collabo Letter No.1)に引き続き、1970年～2015年の国調データに基づき、地域における過去45年間の人口動向を概観する。前回は、都道府県単位の動向が中心であったが、今回は市区町村単位を中心に概観する。

45年間というスパンは、これを将来に向けて反転させると「人口ビジョン」目標年の2060年となる。

※2015年国勢調査による全国1,741市区町村を基本に集計・分析しており、1970年以降の合併により消滅した市町村は合併後の自治体データとして集約されている。

※東京都特別区については23区をそれぞれ個別に集計している(総務省の国勢調査人口集計速報では特別区部として一括処理)。

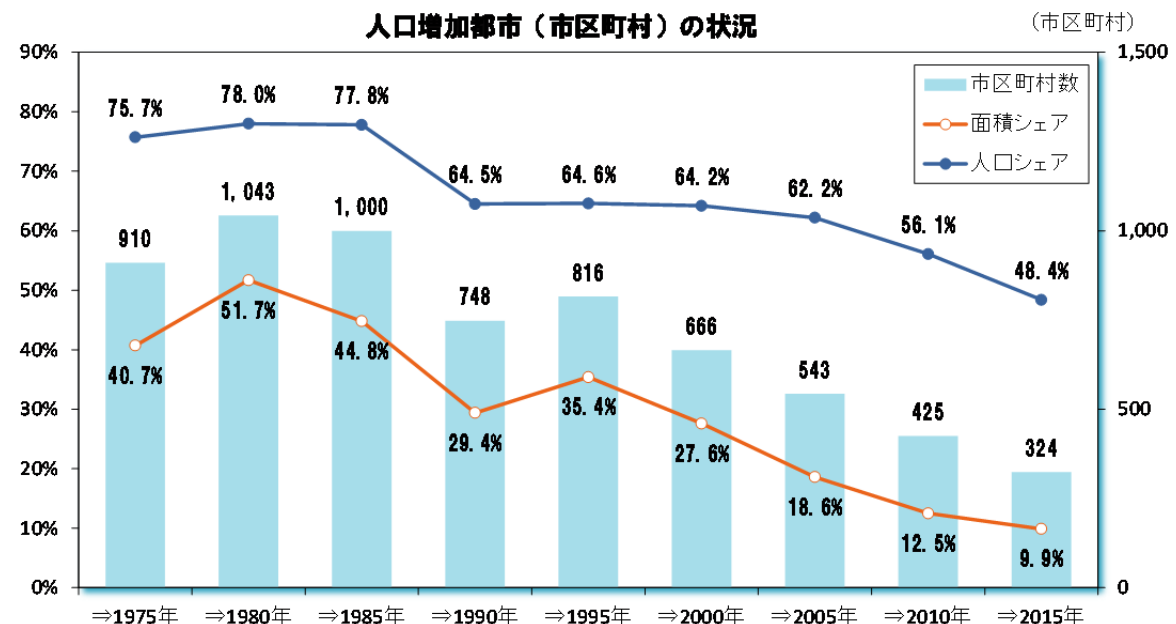
地方人口の減少を伴う人口集中は1980年以降の大きなトレンド

○5年毎の人口増加都市(市区町村)の状況を見ると、1980年には1,043都市で人口が増加しており、これらの1,043都市で我が国総人口の78.0%、国土面積の51.7%を占めていた。

○しかし、1980年以降は人口増加都市数は減少傾向での推移を始めており、この時から地方から東京圏等の大都市部への恒常的な人の流れと、それに伴う地方人口の減少が始まったことがみてとれる。

○1995年に一旦人口増加都市が増えていたが、これはバブル崩壊により大都市部、特に東京における労働市場の冷え込みに伴い、地方への回帰現象が生じたことによるものである。

○1980年以降のこうしたトレンドの結果として、2015年の人口増加都市は324都市にまで減少しており、その人口シェアは48.4%、面積シェアは9.9%となっている。換言すれば、我が国の国土面積の10%足らずのエリアが今日の人口増加エリアであり、そこに総人口のおよそ半分を占める人口が集中していることになる。



○過去45年間に人口が10倍以上(人口増加率950.3%)に増えた町、それが富谷町だ(右表参照)。

○1970年代から2010年代前半に至るすべての期間で人口増加率の町村トップテンにランクインするなど、長期的・安定的に成長してきた“勝ち組”の町と言える。

○仙台市に隣接し、典型的なベッドタウンとして発展してきており、近年では近隣自治体にグローバル拠点となる生産ラインを構えるトヨタ自動車東日本への通勤利便性も魅力となっている。2015年の人口は51,592人で、平成28年10月10日の市制移行が予定されている。

Short column

1970年代(1970⇒1980年)	1980年代(1980⇒1990年)	1990年代(1990⇒2000年)	2000年代(2000⇒2010年)	2010年代前半(2010⇒2015年)	過去45年間(1970⇒2015年)
--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	----------------------	--------------------

※1990年代・2000年代については3宅村を除く。2010年代前半・過去45年間については、福島県内7町村(浪江町・双葉町・大熊町・富岡町・飯館村・葛尾村・楡葉町)を除く。

Visit.Collabo! ～軍艦島から離島を考える～

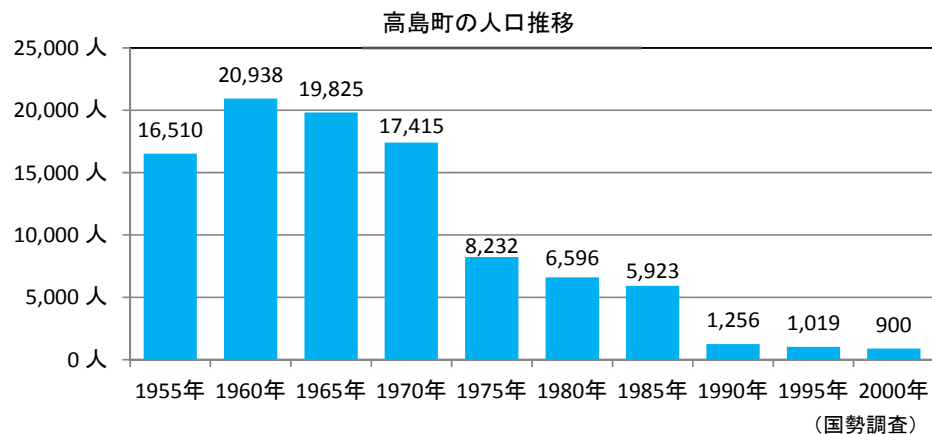
世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産のひとつである軍艦島について視察した。この視察に先駆け、島の歴史について調査・分析を行う中で捉えたキーワードの一つが“離島”であった。



※本稿では北海道・本州・四国・九州・沖縄本島を「本土」、これを除く島を「離島」とする。
※1970年以降の合併により消滅した市町村は合併後の自治体データとして集約している。

高島町の栄枯盛衰

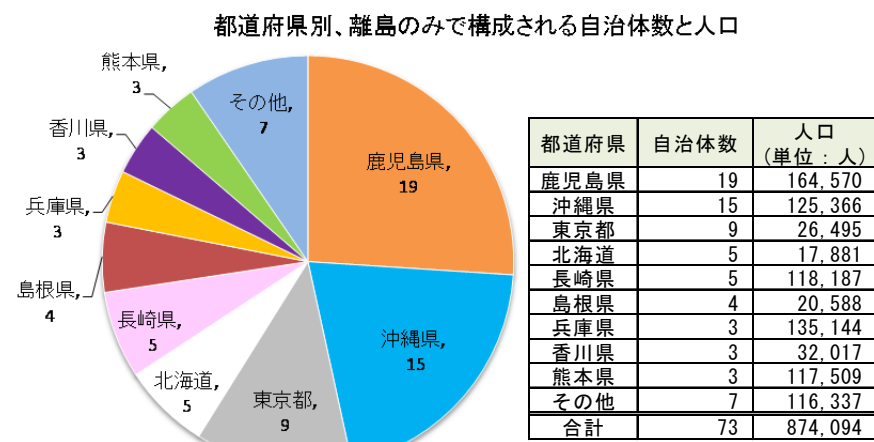
○軍艦島（端島）を含む高島・飛島・中ノ島という4つの離島のみで構成される自治体であった高島町は、1970年頃まで各島から採掘される良質な石炭によって繁栄した。特に軍艦島においては島の人口のピーク時における人口密度が83,600人/km²と世界一を誇った。



○しかしながら、主要なエネルギーが石炭から石油へ移行する中、1974年に軍艦島の炭鉱が閉山されたことを皮切りに、他に大きな産業を持たない高島町の人口は急激に減少、長崎市へ編入された2005年1月時点では778人（長崎県推計人口）と日本で最も人口の少ない町となっていた。
○基本的にこうした離島のみで構成される自治体については、地域の産業や交通をはじめとする公共サービス等が限定されることから、本土の自治体と比較して人口の維持がより困難な状況にあると考えられる。

離島のみで構成される自治体の数

○2016年現在、離島のみで構成される自治体の数は73（市14、町村59）となっており、九州・沖縄の自治体がその過半数を占めている。なお、こうした自治体の人口の合計は874,094人となっている。



(自治体数：日本離島センター「離島関係市町村一覧」等から独自集計、人口：国勢調査)

離島のみで構成される自治体の人口の状況

○離島のみで構成される自治体の2015年の人口をみると、天草市が82,770人と最も多く、青ヶ島村が178人と最も少なくなっている。
○こうした自治体について、1970年から2015年までの45年間の人口の推移をみると、人口増加率が大きい上位10市町村は（人口が増加しているのは5市村のみ）うち5村が東京都の自治体、5市町村が沖縄県の自治体となっている。また、人口減少率が大きい上位10市町村をみると、うち5町が北海道の自治体となっている。

人口規模が大きい上位5市・町村(2015)

市	人口 (単位:人)	町村	人口 (単位:人)
天草市 (熊本県)	82,770	新上五島町 (長崎県)	19,722
佐渡市 (新潟県)	57,262	周防大島町 (山口県)	17,203
宮古島市 (沖縄県)	51,196	小豆島町 (香川県)	14,870
石垣市 (沖縄県)	47,660	隠岐の島町 (島根県)	14,591
南あわじ市 (兵庫県)	46,948	土庄町 (香川県)	14,005

人口規模が小さい上位5市・町村(2015)

市	人口 (単位:人)	町村	人口 (単位:人)
西之表市 (鹿児島県)	15,958	青ヶ島村 (東京都)	178
江田島市 (広島県)	24,351	御蔵島村 (東京都)	335
上天草市 (熊本県)	26,998	利島村 (東京都)	338
杵岐市 (長崎県)	27,106	粟島浦村 (新潟県)	370
対馬市 (長崎県)	31,468	三島村 (鹿児島県)	407

人口増加率が大きい上位10市町村(1970⇒2015)

市町村	1970年	2015年	45年間の増減数 (1970⇒2015)	45年間の増減率 (1970⇒2015)
小笠原村 (東京都)	782	3,023	2,241	286.6%
御蔵島村 (東京都)	203	335	132	65.0%
利島村 (東京都)	251	338	87	34.7%
石垣市 (沖縄県)	36,554	47,660	11,106	30.4%
渡嘉敷村 (沖縄県)	712	731	19	2.7%
神津島村 (東京都)	2,081	1,891	-190	-9.1%
北大東村 (沖縄県)	764	629	-135	-17.7%
竹富町 (沖縄県)	4,904	3,995	-909	-18.5%
座間味村 (沖縄県)	1,109	870	-239	-21.6%
青ヶ島村 (東京都)	234	178	-56	-23.9%

人口減少率が大きい上位10市町村(1970⇒2015)

市町村	1970年	2015年	45年間の増減数 (1970⇒2015)	45年間の増減率 (1970⇒2015)
羽幌町 (北海道)	28,574	7,321	-21,253	-74.4%
利尻町 (北海道)	7,553	2,303	-5,250	-69.5%
小値賀町 (長崎県)	7,552	2,560	-4,992	-66.1%
利尻富士町 (北海道)	7,682	2,788	-4,894	-63.7%
礼文町 (北海道)	7,535	2,776	-4,759	-63.2%
奥尻町 (北海道)	6,425	2,693	-3,732	-58.1%
新上五島町 (長崎県)	46,762	19,722	-27,040	-57.8%
渡名喜村 (沖縄県)	1,004	430	-574	-57.2%
大崎上島町 (広島県)	17,872	8,037	-9,835	-55.0%
周防大島町 (山口県)	37,631	17,203	-20,428	-54.3%

人口増加率が大きい上位10市町村(2010⇒2015)

市町村	2010年	2015年	5年間の増減数 (2010⇒2015)	5年間の増減率 (2010⇒2015)	備考
十島村 (鹿児島県)	657	758	101	15.4%	減少⇒増加
与那国町 (沖縄県)	1,657	1,843	186	11.2%	減少⇒増加
小笠原村 (東京都)	2,785	3,023	238	8.5%	一貫増加 (2005年以降)
竹富町 (沖縄県)	3,859	3,995	136	3.5%	減少⇒増加
石垣市 (沖縄県)	46,922	47,660	738	1.6%	一貫増加 (1980年以降)
粟島浦村 (新潟県)	366	370	4	1.1%	減少⇒増加
座間味村 (沖縄県)	865	870	5	0.6%	減少⇒増加
神津島村 (東京都)	1,889	1,891	2	0.1%	減少⇒増加
海士町 (島根県)	2,374	2,354	-20	-0.8%	一貫減少 (1975年以降)
利島村 (東京都)	341	338	-3	-0.9%	増加⇒減少

○2010年から2015年までの5年間の人口の推移をみると、人口が増加している自治体は8市町村で、そのうち小笠原村・石垣市を除いた6町村が2010年までの減少傾向から増加へと転換している。
○人口減少に歯止めをかけるというテーマを掲げた地方創生をはじめ、国全体がこうした取組を進める中で、近年頻繁にそのまちづくりが成功事例として取りざたされる海士町の例を挙げるまでもなく、過酷な条件下においてすでに人口の増加や人口減少の抑制を成し遂げている離島のみで構成される自治体の取組からは、参考とし学びとるべきことが多いと考えられる。
○ただし、人口規模が1,000人に満たないような小さな自治体における人口の変化は、国勢調査人口によってその推移をみた場合、例えば大規模なインフラ整備による作業員の流入・流出といった、実質的な定住人口とは直接関わりの少ない移動が大きく影響している可能性があることについて、留意する必要がある。

Collabo Library ~読む・観る・聴く~

- ◆京都ざらい (井上章一) 朝日新書 ★★
 - ・差別と区別の差異はともかく、文化=分化だなの書。井上章一の近影を見ると変わりましたね。
- ◆新・地政学 (山内昌之+佐藤優) 中公新書ラクレ ★★
 - ・地政学の観点から地方自治体を考えてみること (メモ)。

- ◆外国語を学ぶための言語学の考え方 (黒田龍之助) 中公新書 ★★★
 - ・言語学はアプローチの考え方が面白い。
- ◆中国4.0 (エドワード・ルトワック) 文藝春秋 ★★★★★
 - ・フリードマンの「100年予測」が好きなら、かなりお勧め。
- ◇ GOOD WILL HUNTING (1997 米) ★★★★★
 - ・虐待が原因で、心を堅く閉ざした数学の天才的な能力を持つ若者と恋人やカウンセラーとの交流の物語。一度はみるべき名作。